



あおもり 町連だより

第207号

平成29年7月発行

青森市町会連合会

TEL 017(734)2584

FAX 017(734)2587

29年度
定時総会

地域の和を広げる活動推進

事業計画など全議案原案通り承認

青森市町会連合会は5月31日（水）午後1時からホテル青森で平成29年度定時総会を開き、町会長236人が出席、全議案を原案通り承認しました。

総会は松本勝義常任理事が司会を務め、八戸弘副会長が開会を宣言、物故者に黙祷をささげた後、加川幸男会長があいさつ、地域の組織が連携し、安心な暮らしを守ることができるよう、地域の和を広げる活動を推進して参りたいと述べました。

次いで、長年町会運営に貢献し退任した町会長20人、優良会員145人、功労団体1団体を表彰（2面に掲載）、受賞者を代表して柴田秀憲氏（小館）が謝辞を述べました。

続いて、来賓の増田一副市長（市長代理）、大矢保市議会議長、吹越一人青森警察署長があいさつに立ち、各町会長のまちづくりや福祉向上への尽力をたたえる祝辞を述べ、同じく来賓として出席した伊藤芳男浪岡町内会連合会会長が紹介されました。

この後、神保修平氏（堤橋町会長）を議長に選出し、議事に入りました。

議事は、議案の28年度事業報告について各部長が報告、28年度一般会計収支決算などにつ



町会長236人が出席して開かれた29年度定時総会

いて三上金藏事務局長が報告した後、原案通り承認しました。

引き続き、29年度事業計画、一般会計収支予算案などについて審議を行い、出席者から①600万円あまりの調整積立金の目的は何か②アパート等入居者の町会加入促進にどのように取り組んでいるか③道路の亀裂補修などを市に積極的に要望してほしい④重点目標のひとつとして、文化の香りがするまちづくりを進めるとしているが、市の「版画の街」などの取り組みに青少年育成を絡めるなどの活動を検討してほしい⑤ごみの不法投棄が絶えない。ごみ減量化、資源再利用にさらに突っ込んだ取り組みをしてほしい⑥市役所の多くの部局がアウガへ移転するに合せて市町連事務局もアウガへ移転するということだが、移転後の共益費等はいくらになるか⑦空き家問題はますます深刻になる。今後の対応マニュアルなどを考えているか—と質問、意見が出された後、原案通り承認しました。

（2面へ続く）

紙面紹介

- | | |
|----|---------------------------------|
| 2面 | 退任町会長ら表彰
29年度定時総会続き、29年度事業計画 |
| 3面 | 28年度市政懇談会
29年度事業計画（2面からの続き） |
| 4面 | 28年度理事研修会
ミニかまくらde雪灯まつり |

退任した町会長20人を表彰

優良町会員145人、功労1団体も

青森市町会連合会は29年度定時総会で、表彰規定に基づき、退任した町会長20人と、優良町会員145人、功労団体1団体を表彰しました。(敬称略、カッコ内は町会名、勤続年数)

□20年以上勤続し退任

故・尾形止次夫(田代平、44)

□5年以上20年未満勤続し退任

山谷久三郎(野内、14) 山内英樹(浪打一丁目、12) 近藤國満(駒込、8) 三藤堅三(佃本町第三、9) 奈良岡勝昭(唐橋、5) 柿崎昭夫(北富田、8) 山谷定男(稲元、10) 夏堀克己(三和、7) 木村平八郎(滝内、13) 佐藤孝雄(石江江渡中、14) 柴田秀憲(小館、15) 櫻田芳正(常



受賞者を代表して謝辞を述べる柴田秀憲氏

盤町、12) 小倉定勝(幸畑第四、9) 今豊成(東奥野第二、12) 風晴修(安田、8) 長崎悟(片岡、16) 瀬川文雄(妙見第四、12) 八木橋豊幸(前田、10) 宮川隆英(古川仲町、14)

□優良町会員

坪谷裕和(伝馬町)ほか144人

□功労団体

幸畑阿部野町会あざみの会

その他について①町会加入者が減ってきた、役員を引き受ける人がいないなど、町会運営が難しくなっている。今後の町会のあり方を検討する時期が来ている②来賓者の方にも議事の審議を聞いてもらえるようにできないか③浪岡町内会連合会との合併を具体化するよう検討してほしい④市町連だよりに掲載欄を設けるよう検討してほしい—と意見、要望が出されました。また、市交通部から、今後4年間にバス待合所の新設、改築等の整備を行うことにしている「バスまち空間向上事業」について説明がありました。

地域力の強化を目指して 29年度事業計画

基本方針

青森市町会連合会の目的である「各町会の連絡調整と住民の福祉増進を図り、豊かで住みよいまちづくり」のため、活動の推進に努めて参ります。

近年は、少子高齢化社会の進展と人口減少などにより、地域を支えるチカラが弱くなり、お年寄りなどが安心して暮らせるよう「支え合い」「声がけ」など、行政・地域・個人単独でできることにも限りがあることから、地域力の強化を目指していかなければならないものと考えております。

地域独自の時代に合った地域づくりのため、地域の組織が連携し、安心な暮らしを守ることができるよう、地域の和を広げる活動を推進して参り

たいと考えております。

重点目標

青森市町会連合会は「重点目標」の骨子を、町会連合会、地域協議会、地区連合町会、町会が組織一丸となった活動を原点とし、「ふれ合い・助け合い・支え合い」の地域みんなのチカラで、地域住民みんなが明るく笑顔で暮らせる町会づくりを推進することとします。

- (1) みんなで考え、みんなで参加し、みんなの力でまちづくりを進める
- (2) 地域への誇りと愛着心を持ち、明るく笑顔で暮らせるまちづくりを進める
- (3) お年寄りなどが安心して暮らせるまちづくりを進める
- (4) 安全で快適な暮らしができるまちづくりを進める
- (5) 健康づくりの盛んなまちづくりを進める
- (6) 青少年が健やかに育つまちづくりを進める
- (7) 文化の香りがするまちづくりを進める

各部推進事業

総務部会

- ・総会、役員会、部会等各種会議の開催
- ・各部会との連絡調整、行政及び各機関との連絡調整、広報「町連だより」の発刊
- ・市政懇談会、新任町会長研修会、理事研修会、町会長研修会等の開催

—— 28年度市政懇談会 ——

個性を活かし、まちづくり

「タウンミーティング」の趣旨説明

市町会連合会と市の28年度市政懇談会が1月19日（木）、市教育研修センターで開かれ、小野寺晃彦市長が、29年度から新しく始める広聴事業「あおりタウンミーティング」について説明しました。



「タウンミーティング」の趣旨を説明する小野寺市長

懇談会には市町連から加川幸男会長はじめ副会長、常任理事、理事ら34人、市からは小野寺市長のほか、増田一副市長、福井正樹市民政策部長らが出席しました。

小野寺市長はあいさつで「青森市には他都市と比べてしっかりした町会組織があり、雪、ごみはじめ様々な問題について町会がリードして活動し

ている。これは青森市の長所だ」と述べ、続く「市長からの情報提供」で「あおりタウンミーティング」の趣旨、内容について一つひとつ例を挙げながら説明しました。

「タウンミーティング」は、市民ニーズや地域の課題を把握し、市政運営の参考とするとともに、地域の個性を活かしたまちづくりを推進するため、市内に37ある地区連合町会と5つの地域協議会を対象に順次開催。開催日時（時間は概ね1時間から1時間半程度）、会場、参加者、テーマについては、それぞれの地区連合町会、地域協議会の要望に応じて決めます。ミーティングには市長と関係部長が出席、開催PRは町会回覧板、広報あおり、市ホームページで行います。

この後、市町連側から①市が浪岡町と合併して時間が経つが、町会是一緒になっていない。町会の合併についてお骨折りいただきたい②新青森駅前の保留地の売却状況、取り組みを説明いただきたい③支所のあり方について、指針を示してもらいたい④市民憲章を合併前は市で啓発を行っていたが、合併後は行われていない。市が啓発していかなければならない⑤克雪に向け地中熱、地熱を利用する施設を造るなどして雪に強いまちづくりを進めてほしい—と質問や要望を述べました。

- ・安全で安心な、住んでよかった街づくりの促進
- ・地域課題への積極的対応と地域づくり事業の促進
- ・青函ツインシティ交流研修会の開催

地域振興部会

- ・コミュニティ活動の活性化促進
- ・街路灯の設置及び修繕、道路舗装・側溝整備の要望活動
- ・雪処理事業の充実促進の要望活動
- ・災害に強い地域づくり事業の促進の要望活動

交通・防犯部会

- ・高齢者と子供を守る運動の推進
- ・交通安全関係者会議への参画及び協力
- ・交通安全協会事業と連携した活動の推進
- ・防犯運動団体等との連携した活動の推進

環境部会

- ・ごみの減量化と資源再使用の促進
- ・指定ごみ袋の利用促進
- ・清潔で地域花いっぱいまちづくりの推進
- ・身近な温暖化対策呼びかけ運動への協力

- ・市等が行う環境啓発事業への参加、協力
- ・廃棄物不法投棄の通報協力
- ・野生動物（主にカラス、ハトなど）への餌やり防止活動推進

福祉部会

- ・高齢者を励ます活動
- ・地域ネットワーク活動推進事業の促進
- ・町会等が行う福祉事業の支援並びに地域づくり事業の推進
- ・災害時要援護者支援運動
- ・市民生委員・児童委員協議会との意見交換会

女性部会

- ・検診受診勧奨、広報活動
- ・交通安全運動推進・啓発
- ・町会女性役員（リーダー）研修会の開催
- ・町内女性の集いの開催
- ・各地域での消費生活講習会、防災炊き出し調理訓練等の講習・研修会開催の啓発

防災減災へ認識新たに

28年度理事研修会

市町連は昨年12月12日（月）ラ・プラス青い森で、平成28年度理事研修会を開き、NPO法人青森県防災士会の小笠原正弘事務局長＝写真＝が「防災士の役割」をテーマに講演、出席した35人が防災・減災対策について認識を新たにしました。



小笠原事務局長はじめに、「自助」、「共助」、「協働」を原則に、減災と社会の防災力向上

のために活動する防災士について、その誕生までの経緯を紹介、「阪神・淡路大震災の教訓として、事前の防災対策と災害発生時の応急対応に全国的な備えが必要であることが明らかになったことから、NPO法人日本防災士機構が設立され、平成

15年10月に初めての防災士が誕生し、防災士制度がスタートした。平成18年2月に日本防災士会青森県支部が、19年12月にNPO法人青森県防災士会が設立された」と話し、「大災害発生時は、公的支援が始まるまでにおおむね3日間かかる。その間は、各家庭、地域で生命、財産の被害軽減に努めないといけない。防災士は減災、防災の知識・技能を発揮し、避難、救助、避難所運営などにあたり、地域、自治体、公的組織、ボランティアとの連携を図る中核として活動する」と防災士の役割を強調しました。そして、防災士認定登録申請ができるまでの手順、手続きについて説明、防災士認定登録者は、11月末現在全国で約12万人、本県では1,452人が認定登録者になっているが、青森県防災士会の会員は129人で、認定者の10分の1以下にある実情を話しました。

そのほか、本県の防災士養成機関（青森中央学院大学が年1回防災士養成講座と資格取得試験を開催。弘前市が防災マイスター育成講座を開催）、習得への助成制度（青森市、弘前市、八戸市、十和田市、三沢市、おいらせ町で実施）、日ごろの活動事例（市町村の総合防災訓練への参加、小学校などでの防災教室開催など）を紹介しました。

ミニかまくら de 雪灯まつり

横内地区まちづくり協議会

南部第二区連合町会（10町会）の住民、団体などで組織する横内地区まちづくり協議会（会長・館山義光雲谷町会長）は2月26日（日）、横内市民センター前で、「ミニかまくらde雪灯まつり」を開き、会場に200個余り設置したミニかまくらのキャンドルの灯が、道行く人たちの目を楽しませました。

昨年9月に設立した同協議会は、地域交流のひとつとして、同まつりを今回初めて企画。昼過ぎから、地域住民、横内小・中学校の児童生徒、青森中央学院大学の留学生らが協力し、バケツに雪を詰めて型をつくったミニかまくらにキャンドルをはめ込む作業を開始、夕方、キャンドルに点火すると幻想的な光景が現れました。会場では温かいポタージュを提供、キャンドルを灯した8時ごろまでに80人ほどが訪れました。

同協議会は、今回の経験を活かして、今後も地



道行く人たちの目を楽しませた雪灯まつり

域の住民に喜ばれるまつりにしていきたいと話しています。

人事 青森市町会連合会の事務局長・今正義氏が3月末で退任、後任に三上金藏氏が就任しました。

編集後記

食中毒といっても原因は様々で、一年中発生していますが、細菌性による食中毒は7～8月が最も多く発生しています。予防の基本は、細菌を「付けない、増やさない、やっつける」。過労、睡眠不足は免疫力が低下して、重症化しやすいそうです。注意しましょう。（千）